

## 浦幌 今、そこにある課題

### －子どもたちが減少している現状－

浦幌に限らず、今、我が国の地域を取り巻く環境は、過疎化や高齢化、就業者人口の減少など非常に厳しい状況が続いてると言われています。右の図は、浦幌町の人口、産業人口（第1次、第2次、第3次産業に従事する人の数）および児童・生徒数（小中学校に通う子どもの数）を、昭和55年を100.0として指数整理したものです。

図を見ると他の項目に比べ、児童・生徒数が顕著に減少していることがわかります。子どもの減少とは、子育て世代の減少を意味し、浦幌では数十年間にわたり、子育て世代の減少やその世代が生み育てる子どもたちが減少し続ける連鎖が続いていることを表しています。

この連鎖を抑制するためにも、今、子どもたちが地域に定住するための雇用の場が必要であり、喫緊の課題となっています。

	人口	産業人口	児童・生徒数
S55年	100.0 (9,970人)	100.0 (7,920人)	100.0 (1,458人)
H2年	86.9	87.5	73.8
H12年	71.1	68.8	46.8
H17年	63.9 (6,368人)	60.6 (4,799人)	34.1 (497人)
H22年	57.0 (5,684人)	-	26.2 (382人)

参考：人口、産業人口は国勢調査による。  
児童・生徒数は学校基本調査による。

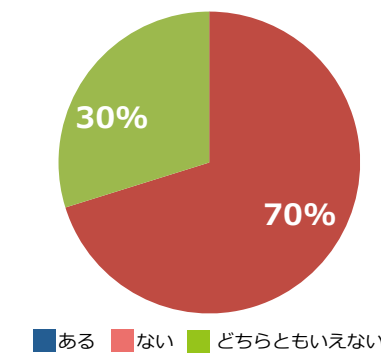


## 児童・生徒を持つ保護者の意見

### －若者の雇用に対する意識の現状－

- 調査規模：浦幌町内小・中学校 計5校
- 調査期間：平成25年6月17日(月)～7月22日(月)
- 配布方法：アンケート用紙を学校の先生の協力を得て、保護者へ配布
- 回収方法：学校ごとに取りまとめた回答を回収
- 回答者数：114名

### 雇用の場の現状について

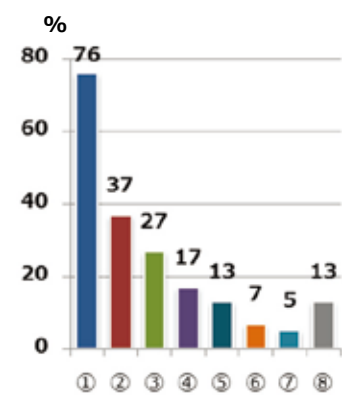


雇用の場が十分にあると思う「7割」、どちらとも言えないと思う「3割」、『十分にあると思う』の回答はゼロ

【理由：主なものを掲載】

- ・新規企業が参入していないので雇用の場が増えていない。人口が減少している所以需要が増えない。
- ・子どもが頑張って資格を取ったり、学んだことを生かして地元に戻ってきても受け皿となる職場がなかったり、働ける職種が限られていると思う。
- ・雇用の場があったとしても、それが若者にとって望む場所なのか疑問。選択肢は少ないと思う。
- ・若い人の働く場所が少ないから、地元に戻りにくいという印象があるが、求人等を見ると実感がよく分からない。

### 就業形態について



### 子どもが望む職業についてほしい「約8割」

将来の就業形態では、「子どもが望む職業についてほしい」の回答割合が8割、ついで、「安定した職業に就いてほしい」「職業に役立つ何らかの資格を取ってほしい」「自分で独立して生計を立ててほしい」と続きました。アンケートの設問には、「家業や親の職業を継いでほしい」や「地元（浦幌）で働いてほしい」といった項目も設けましたが、保護者さんたちの意見では、これらの回答はほとんど見られない結果になっています。

【回答項目】

- ①子どもが望む職業に就いてほしい
- ②安定した職業に就いてほしい
- ③職業に役立つ何らかの資格を取ってほしい
- ④自分で独立して生計を立ててほしい
- ⑤手に職をつけてほしい
- ⑥世の中の役に立つような仕事をしてほしい
- ⑦専門職に就いてほしい
- ⑧その他

## 若者の雇用創造事業検討会議委員

浦幌町内で農林水産業・  
商工業に従事する方

石田 雅之・中山 晴彦（商工業）  
石原 英之・山田 卓（農業）  
北村 昌俊・木下 真利（林業）  
三宅 貴誠（漁業）

浦幌町内の  
経済産業団体職員

谷川 明弘（浦幌町農業協同組合）  
関 正博（浦幌町商工会）  
黒川 勲（浦幌町森林組合）  
栗山 博文（大津漁業協同組合厚内支所）

浦幌町職員

廣富 直樹（浦幌町産業課）  
井上 亨（浦幌町まちづくり政策課）

うらほろスタイル  
推進地域協議会

近江 正隆

子どもたちが  
夢と希望をいただける  
まちを目指して

浦幌の子どもたちのために

雇用創造について考える ～今、私たちがすべきこと～

発行 平成26年2月

作成：うらほろスタイル推進地域協議会 若者の雇用創造事業検討会議

協力：一般社団法人食品需給研究センター（業務委託先）

印刷：有限会社 浦幌印刷

発行：うらほろスタイル推進地域協議会

〒089-5692 北海道十勝郡浦幌町字桜町15番地（浦幌町役場内）  
TEL 015 (576) 2111 URL <http://www.urahoro-style.jp/>



表紙の写真：  
「うらほろスタイル」を  
学ぶ浦幌の子どもたち

うらほろスタイル推進地域協議会

平成25年度 若者の雇用創造事業プラン作成業務



浦幌の子どもたちのために

## 雇用創出について考える

～今、私たちがすべきこと～



平成26年2月

うらほろスタイル推進地域協議会

若者の雇用創造事業検討会議

うらほろスタイル推進地域協議会では、平成19年度から浦幌の未来を担う子どもたちを対象に「地域への愛着を育む事業」「子どもの思い実現事業」「農村つながり体験事業」の3つのプロジェクトを進めてきました。

子どもたちは、これらの取組を通して浦幌の魅力に触れることで、地域への愛着や自信、誇りが芽生え、地域へ貢献しようという意識が育まれるとともに、浦幌への定住意識を高めるに至っています。

しかし、過疎化・高齢化が進む浦幌においては、地域の経済活力が低下しつつあり、若者の雇用を取り巻く環境は厳しい状況が続いています。このため、町内での就業・定住を希望する若者への雇用機会が与えられず、定住意識は持ちつつも、雇用の場を求めて町外へ転出していくなど、人口減少に拍車を掛けている状況が続き、定住意識を持つ若者の町外流出を防ぐため、魅力ある『若者の雇用の場を創出』していくことが喫緊の課題となっています。

この課題を解決するため、地域の大人たちが集まり「若者の雇用創造事業検討会議」を組織し、町内にある地域資源の可能性・潜在能力の総括的な整理、町民の声の参集、これらを踏まえた浦幌の優位性・課題を分析することで、魅力ある若者の雇用機会（事業モデル）の創造について検討を行いました。

すべては、うらほろの子どもたちのために…今、大人たちができることを…

うらほろスタイル推進地域協議会



### 整理する

若者の雇用を取り巻く浦幌の現状について、統計資料等から数値情報を収集し整理を行うことで、その状況を客観的に把握しました。

一般的に考えられる農林水産物、自然環境、観光資源など、いわゆる浦幌がもつ地域資源に加え、浦幌には、若者の雇用に関わる「その他の資源」として何があるのかなど、経済的側面、環境的側面、人的側面、社会的側面など、広範な視点から整理を行うことで、具体的な雇用創造の可能性についての検討を行いました。



### 分析する

若者の雇用に係る町民の皆さんの意識について、アンケートやヒアリングなどで把握を行いました。また、収集した意見や要望など、具体的なコメント等を整理することで、雇用について、今、地域にある課題や皆さんの声を取りまとめました。

これらの情報をもとに、地域で雇用を創造する場合の基盤となる要素を分析するとともに、実際に地域で雇用機会を創造しようとする場合、若者たちどのような形で地域に戻ってくるべきかについてのシミュレーション検討を行いました。



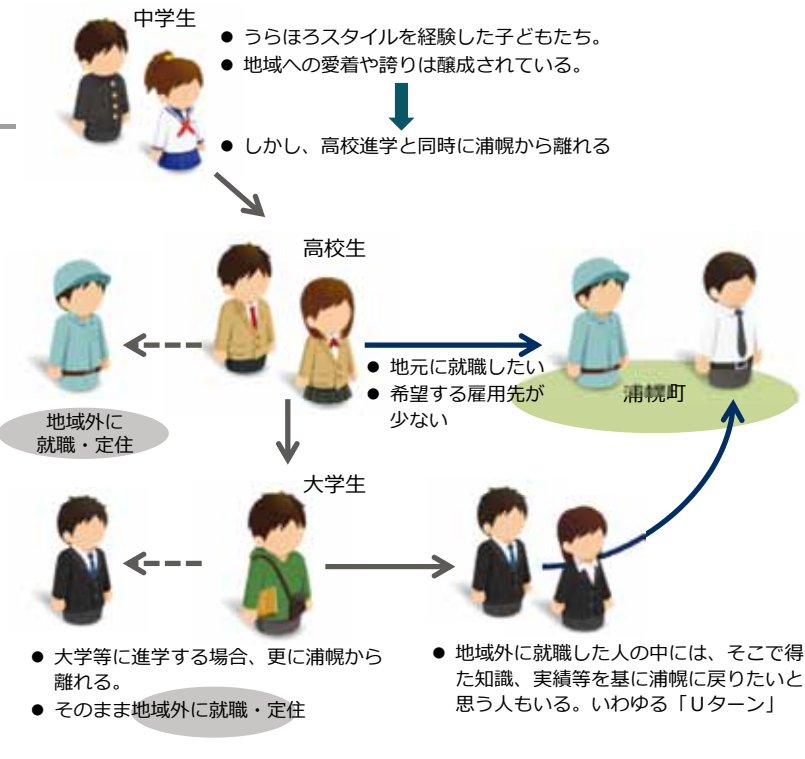
### 発想する

得られた情報を精査し、地域で雇用を創造するためプランを、既存の考えにとらわれずことなく自由な発想とアイデアで意見を出し合いました。また、そのアイデアに対し、地域が過度に負担を背負うことなく、少しずつの努力で達成可能な雇用機会（事業モデル）の原案について検討を行いました。

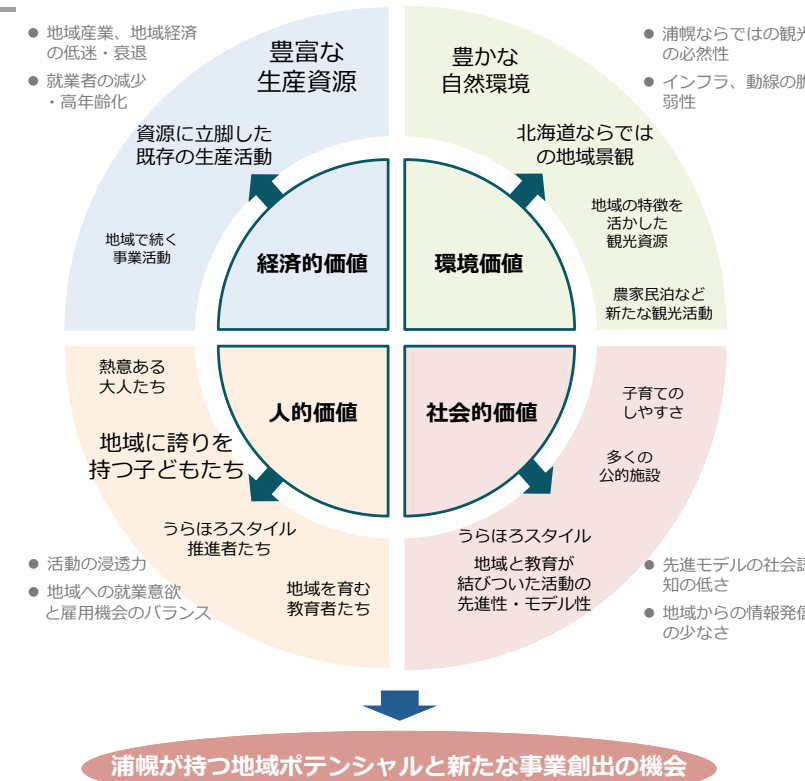
更に、取りまとめとして、私たちが浦幌の子どもたちのために、今、何をしなければならぬのか、将来、何をすべきなのかについての提案を行いました。



### 浦幌の子どもの就業 -中学校卒業後のフロー-



### 若者の雇用を生み出す浦幌の地域資源 -地域ポテンシャルの優位性検証-



**<雇用の創出方法は2つ>**

若者たちの雇用を創造して行くには以下の2つの方法が考えられます。

- (1) 既存の事業者や公的機関、行政機関等が数年間に1名程度以上の受入確保に向け、収益の向上を達成して行く。
- (2) 地域ポテンシャルを利活用した新たな事業創出に向け、自身が希望する起業・創業を促す。

### 生産 - 林業をモデルに - 浦幌の林業と町民を繋ぐ雇用創造

浦幌は生活の近くに生産業があり、これら生産業が地域産業の基盤を担ってきたと言えます。

うらほろスタイルで地域への誇りを育んだ子どもたちが、より地域の基幹産業である農業、漁業、畜産業、林業に接し、仕事の大切さを知ることが重要です。地域住民が生産業務を子どもの成長とともに体験して行く為には地域全体をあげての連携が必要です。

右の図では、林業をモデルに町民参加型の植林・育成活動を提案しています。町民が生産の各場面に参加することで、現状の課題解決の糸口を見出し、地域事業者の経営体力の強化を図ることで、雇用の受け皿を作ることが可能となります。



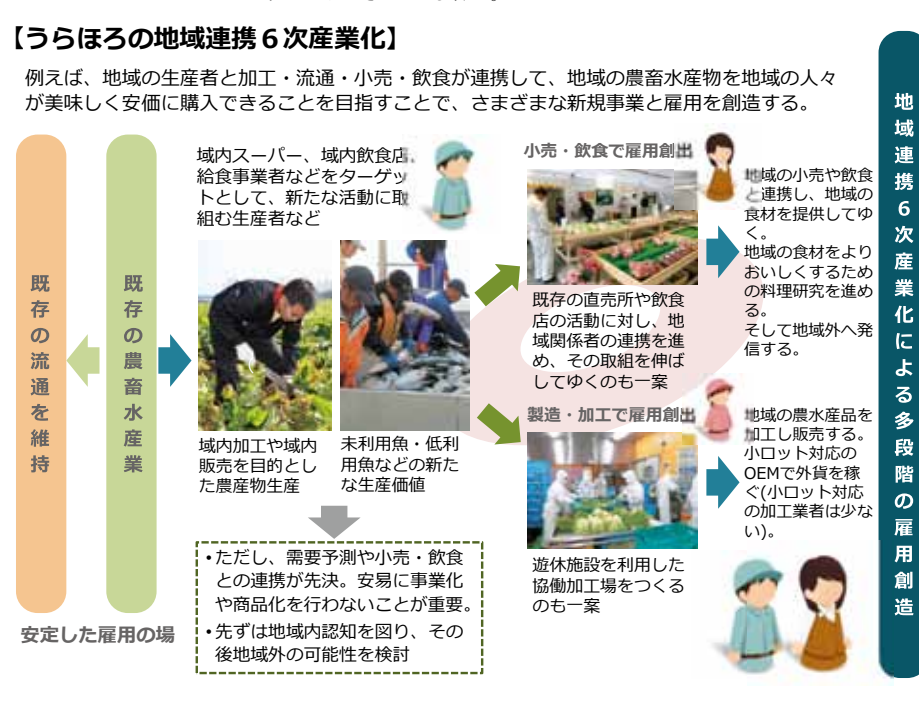
### 子どもたちの成長を通して、さまざまな仕事をプロが教え、地域全体で生産を担う

### 加工・販売 - 農業・漁業をモデルに - 地域連携6次産業化による雇用創造

浦幌の基幹産業である農業や漁業、農業では馬鈴薯、甜菜、小麦、豆類、漁業では鮭、タコ、ホッキ貝、シヤマなどいわゆる規模の生産が行われてきました。

近年、これらの生産者などが自ら加工や販売を行ったり、他の事業者との連携したりするなど、いわゆる6次産業化や農工商連携の活動が推進されています。これらは、生産の現場において新たな付加価値を生み出す取組として注目されていますが、まだまだ多くの課題も見られます。

他地域の各種事例から課題を整理し、浦幌に適した事業を検討することで、地域に付加価値を落とす新たな事業の構築および雇用の場の創出に繋げることが可能となります。



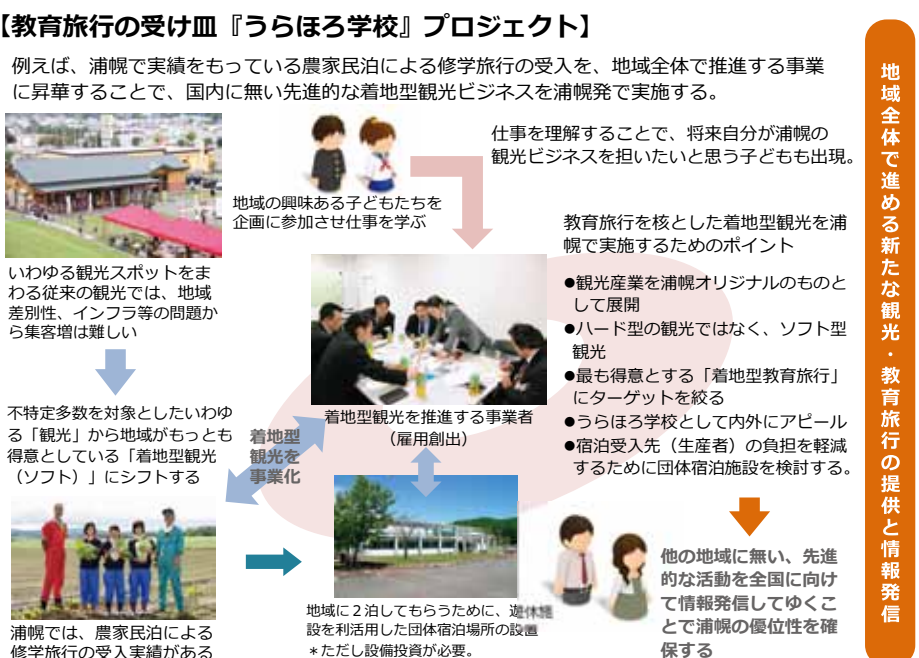
### 既存の浦幌の農水産業を尊重しつつ、加工・販売を自ら行う生産者や事業者の創出

### サービス - 観光業をモデルに - 着地型観光による雇用創造

浦幌の地域ポテンシャルには、地域の自然や農林水産物の他にも、各種の観光資源があげられます。

近年、観光産業は、地元の人を外の観光地に送り出す従来の「発地型観光」以外に、観光客や旅行者を受け入れる地域が自分たちの持つ観光資源を生かして企画する着地型観光にスポットがあてられています。

浦幌には、農家民泊・漁家民泊を中心とした着地型観光の実績があります。特にうらほろスタイルの活動を行う浦幌では、子どもたちに浦幌を体験してもらった「修学旅行」の受入場所の提案など、他地域にない先進的な地域ビジネス・システムを構築することが可能です。



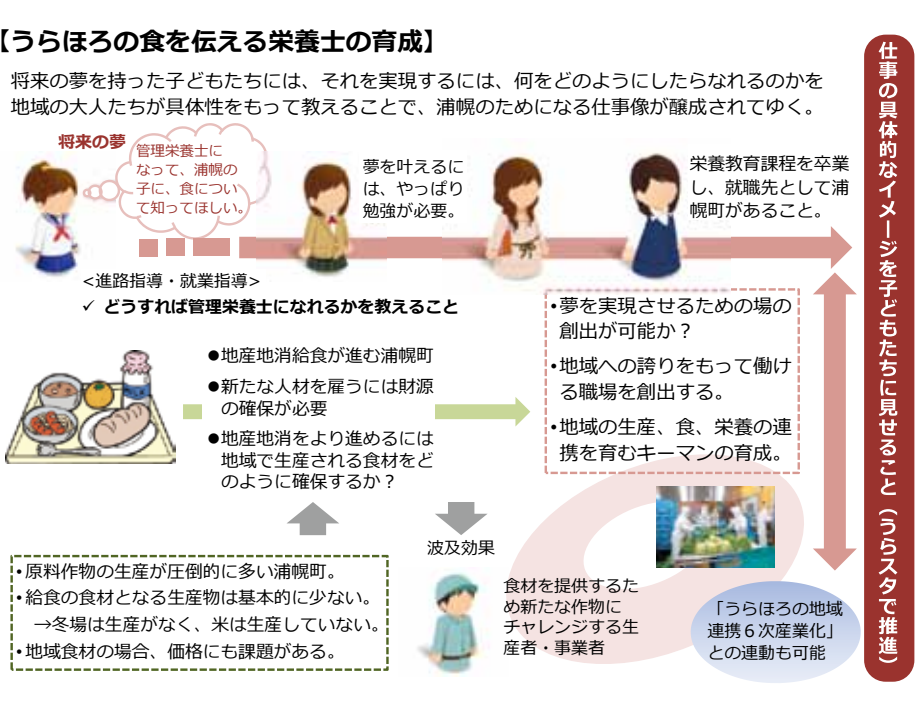
### 浦幌の資源を有効に利活用した着地型観光を進め地域雇用を創出

### 進路指導 - 管理栄養士をモデルに - 子どもの夢を浦幌で実現させる

今回実施した調査のコメントの中に、具体的な将来の夢を語った中学生の意見がありました。中学生で将来の就業のイメージを持っていることは素晴らしいことですが、その目的が浦幌のためといった思いに関心させられます。

今後、うらほろスタイルの活動を通して、このような夢を持った子どもたちが更に生まれてくると考えられます。

具体的な職業の夢を実現させるためにも、その職業に就くには、何が必要か、どのような知識を習得しなければならないのかなど教える必要があります。また、その実現に向けて、受入場所の準備や検討を行うことが必要です。すべては今、浦幌に住む大人たちが少しの力で実施できることもありません。



### 浦幌の地域ポテンシャルを基盤として子どもたちの夢(職業)を実現させる

### 起業・創業 - 新たな雇用を生み出す - うらほろ起業創業ラボの構築

若者の雇用創造のためには、中学校の卒業とともに、浦幌を離れる子どもたち。一般的には、高校を卒業して、地域内に戻ってくるための就業場所を確保することが、若者の雇用創造や定住を促すことに繋がると考えられます。

しかし、このような方法は、地域に戻りたいと思っている子どもたちの主体性を本当に伸ばすことに繋がるものでしょうか?

子どもたちの主体性を尊重するならば、子どもたちが成長して行く過程で身に着ける知識や能力、経験などをもち、将来の浦幌を発展させて行くための新たな仕事を自ら創出することも重要となります。

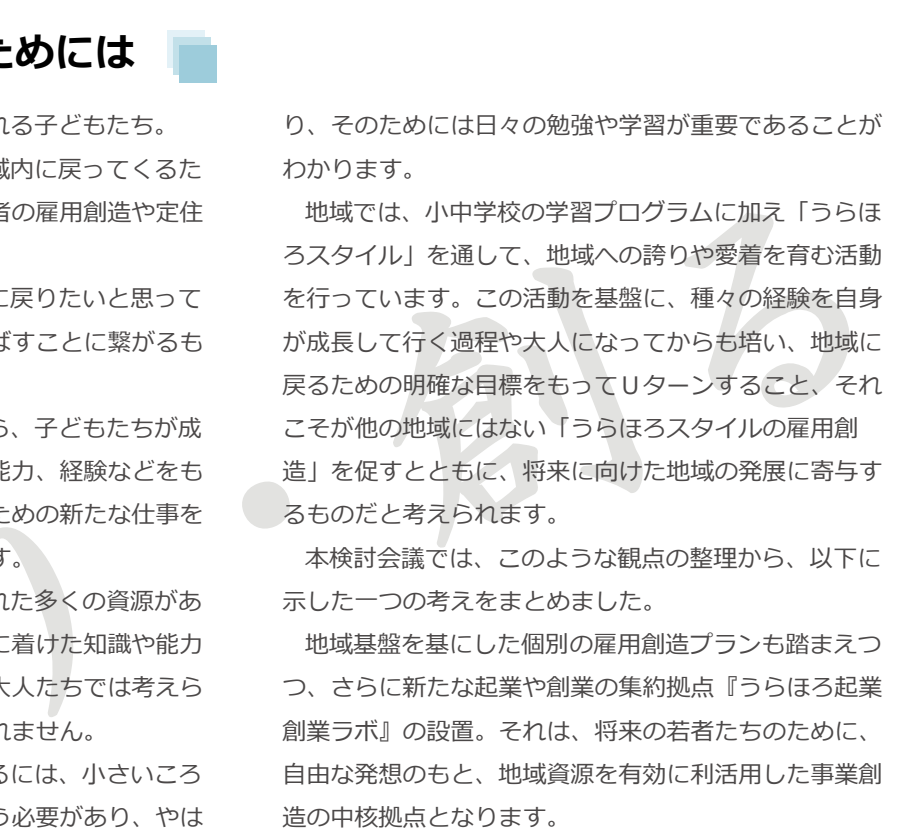
浦幌には豊かな自然、それに育まれた多くの資源があります。子どもたちが大人になり身に着けた知識や能力は、これらを有効に利活用し、今の大人たちでは考えられないような事業を作り出すかも知れません。

このような知識や能力を身に着けるには、小さいころから、発想力や創造力、探究心を養う必要があります。やはり、そのためには日々の勉強や学習が重要であることがわかります。

地域では、小中学校の学習プログラムに加え「うらほろスタイル」を通して、地域への誇りや愛着を育む活動を行っています。この活動を基盤に、種々の経験を自身が行って行く過程や大人になってからも培い、地域に戻るための明確な目標をもってUターンすること、そこそが他の地域にはない「うらほろスタイルの雇用創造」を促すとともに、将来に向けた地域の発展に寄与するものだと考えられます。

本検討会議では、このような観点の整理から、以下に示した一つの考えをまとめました。

地域基盤を基にした個別の雇用創造プランも踏まえつつ、さらに新たな起業や創業の集約拠点『うらほろ起業創業ラボ』の設置。それは、将来の若者たちのために、自由な発想のもと、地域資源を有効に利活用した事業創造の中核拠点となります。



### 若者の雇用創造の基盤となる『うらほろ起業創業ラボ』の構築

若者の雇用の場を創出するためには、町内で営まれている事業の収益力向上や新規事業を創出が必要となります。ただし、これらは従来の業務の延長線的な発想では生み出すことができません。

新たな取組を推進するための知識集約、関係情報の集約や発信など、地域雇用の創出に向けた活動拠点が必要となります。

町内には使用されていない遊休施設が点在しています。これらを利活用し地域に戻る人材の一時的な受け皿やコミュニティの場とすることで、浦幌が持つ地域の優位性を発揮した新たな活動の拠点を構築することが可能となります。

### 新たな雇用を生み出す、浦幌出身者の事業創造を目指すための拠点を創る!